

外陣講義文書

「第1講義文書」 (0 = 0 プロベクションナー)

終章

魔術師への径

- | | |
|----|----------------|
| 1 | 選択肢の提示 |
| 2 | 魔術学習の参考となる書物 |
| 3 | I O S 入団案内 |
| 4 | I O S 質問状 |
| 付録 | I O S 団員登録(別添) |

THE OFFICIAL ORGAN
OF
I O S

PUBLICATION IN CLASSES C ~ D
IMPRIMATUR: M FRATER I O S

First published 1986 by I O S private edition (1st).

Second published 1998 by Sekibunsha (4th).

This Edition 5th online ver.5.22, Revised and Expanded 2008.

All rights reserved. Copyright C 1998, 2008 by Tzutom Akibba

1 選択肢の提示

12章までの作業を終えた方には、三つの選択肢が残されている。

一つ目は、本書『第1講義文書』（第5版）をコンピュータのなかに眠らせ、忘れてしまうことだ。これは案外と多いのではないかと思う。ここに開示した魔術の方法論は、I O S のプロベিশョナー位階（これが公式にはもう存在しないのは周知のとおり。）において、約四年間検証された内容であり、相当ハードなものである。しかし、同時に「黄金の夜明け」団のシステムを敷衍したものであり、様々な流儀全てに対応している訳ではない。あなたに合わないことも、十分に考えられる。

二つ目は、これらの魔術知識を手がかりに、ひとりで実践魔術の深奥へ踏み入ろうとすることだ。その勇気ある読者には、『実践魔術講座』下巻に目を通して頂きたい。そこには過去何年かに、I O S が苦心の末編み出した魔術儀式実践に関する具体的なノウハウが詰まっている。

また、何人かのグループで学習するという幸運に恵まれた人たちが、本書を利用して、新たな魔術儀式を模索するのも一案だろう。著作権法に留意して、慎重に使用していただく分には、I O S を名乗らない研究団体が、本書をテキストとして利用しても差し支えない。

ただし、この書物全体がI O S の仮参入者の一年間の準備期間に使用するために編纂されたことをお忘れなく。いかに分厚く思えても、これは魔術学習の導入部に過ぎないのである。

三つ目は、本書の学習を契機にI O S に入団を希望することだ。

われらが団に参加することを希望される方は、付録の「I O S 入団案内」を良く読んで頂きたい。ただし、むやみに脅すものではないが、希望者の全てが入団できる訳ではない。多くの希望者は参加を拒否されるだろう。

何故ならI O S は営利団体ではなく、著者を含めた団員のボランティアで成立している伝統的な「魔術の学院」だからだ。その指導体制は、上級者が下級者を導く形で行われるため、当然のことであるが指導者の数が新規入団者の数を決定する。

今、入団を申し込まれても、あなたの『魔法日記』による1次審査で、『第1講義文書』が要求するレベルに達していないと判断されるかもしれない。

1次審査合格者には、『ニオフアイト昇任課題』なる2次審査が送付される。これに合格して始めて団員として認められるのだ。

これらの2重の手続きは、人手不足のおり、真に熱意に溢れた優秀な人材を求めるため設けたもので、決して先行の魔術団体としての奢りや高ぶりではないと申し上げておく。急速に手を広げれば、その分、指導の密度とレベルが下がることになり、結果として参入者に対して不誠実になるからだ。残念ながら不特定多数を相手にできるほど、われわれの団の懐は深くないのである。

2 魔術学習の参考となる書物

最後に各章末に示した学習参考図書とは別に、これからのあなたが学習するための指針となる書物を列挙しておこう（これは本書執筆のための参考文献ではない。専門的な書籍は、最初から除外してある。）。

これらの図書について、入手の難易度、現在の価格と在庫の有無までは検証しなかった。

たぶん、金銭的問題などで全部揃えるには時間がかかると思うが、魔術を真剣に実践する者は、なるべく入手を心がけた方が良さだろう。

(1) 邦 書

a 必携図書

| | | |
|-----------|----------------|-------|
| 江口之隆・亀井克之 | 『黄金の夜明け』 | 国書刊行会 |
| I・リガルディー篇 | 『黄金の夜明け魔術全書』上下 | 国書刊行会 |
| F・キング篇 | 『飛翔する巻物』 | 国書刊行会 |
| A・クロウリー | 『魔術 - 理論と実践』上下 | 国書刊行会 |
| A・クロウリー | 『神秘主義と魔術』 | 国書刊行会 |
| D・フォーチュン | 『神秘のカバラ』 | 国書刊行会 |
| W・E・バトラー | 『魔法修行』 | 平河出版社 |

b 実践に関する図書

| | | |
|------------|----------------|-----------|
| 大沼忠弘 他 | 『世界の大秘術 講話』 | 自由国民社 |
| 大沼忠弘 | 『実践カバラ』 | 人文書院 |
| 大沼忠弘 | 『実践魔法カバラ入門』 | 学習研究社 |
| I・リガルディー | 『召喚魔術』 | 国書刊行会 |
| I・リガルディー | 『柘榴の園』 | 国書刊行会 |
| A・クロウリー | 『トートの書』 | 国書刊行会 |
| A・クロウリー | 『777の書』 | 国書刊行会 |
| A・クロウリー | 『霊視と幻聴』 | 国書刊行会 |
| スターホーク | 『聖魔女術』 | 国書刊行会 |
| M・グリーン | 『やさしい魔女』 | 国書刊行会 |
| D・ヴァリアンテ | 『魔女の聖典』 | 国書刊行会 |
| ファーラー夫妻 | 『サバトの秘儀』 | 国書刊行会 |
| フラター・エイカド | 『Q B L カバラの花嫁』 | 国書刊行会 |
| G・シューラー | 『高等エノク魔術実践教本』 | 国書刊行会 |
| W・グレイ | 『実践カバラ魔術』 | 国書刊行会 |
| R・ウォン | 『カバラとタロー』 | 国書刊行会 |
| ピート・キャロル | 『混沌の魔術』 | 国書刊行会 |
| D・A・ノーウィッキ | 『輝ける小径』 | 国書刊行会 |
| D・A・ノーウィッキ | 『魂の旅路』 | 国書刊行会 |
| R・ウォン | 『秘密の聖堂製作法』 | 魔女の家BOOKS |
| 鏡リュウジ | 『魂の西洋占星術』 | 学習研究社 |
| リス・グリーン | 『占星学』 | 青土社 |

c 魔術知識及び歴史に関する図書

| | | |
|------------|-----------------|---------|
| 石上玄一郎 | 『エジプトの死者の書』 | 人文書院 |
| 筑摩世界文学大系 1 | 『古代オリエント集』 | 筑摩書房 |
| E・A・W・バッジ | 『古代エジプトの魔術』 | 平河出版社 |
| G・ショーレム | 『ユダヤ神秘主義』 | 法政大学出版局 |
| G・ショーレム | 『カバラとその象徴的表現』 | 法政大学出版局 |
| P・エプスタイン | 『カバラーの世界』 | 青土社 |
| E・ピショップ | 『カバラ Q & A』 | 三交社 |
| H・ヨナス | 『グノーシスの宗教』 | 人文書院 |
| E・レヴィ | 『高等魔術の教理と祭儀』 | 人文書院 |
| M・P・ホール | 『古代の密儀』 | 人文書院 |
| M・P・ホール | 『秘密の博物誌』 | 人文書院 |
| M・P・ホール | 『カバラと薔薇十字団』 | 人文書院 |
| M・P・ホール | 『錬金術』 | 人文書院 |
| M・P・ホール | 『フリーメーソンの失われた鍵』 | 人文書院 |
| M・P・ホール | 『人間 密儀の神殿』 | 人文書院 |
| J・ヤコビ篇 | 『パラケルスス 自然の光』 | 人文書院 |
| D・フォーチュン | 『心霊的自己防衛』 | 国書刊行会 |
| A・クロウリー | 『麻薬常習者の日記』 | 国書刊行会 |
| F・キング | 『英国魔術結社の興亡』 | 国書刊行会 |
| F・キング | 『性魔術の世界』 | 国書刊行会 |
| F・キング | 『クロウリーの魔術世界』 | 国書刊行会 |
| M・アドラー | 『女神降臨』 | 国書刊行会 |
| 東條真人 | 『タロット大辞典』 | 国書刊行会 |
| シモン・ハレヴィ | 『カバラ入門』 | 出帆新社 |
| シモン・ハレヴィ | 『カバラの宇宙』 | 出帆新社 |
| シモン・ハレヴィ | 『魂の学校』 | 出帆新社 |
| シモン・ハレヴィ | 『占星学とカバラ』 | 出帆新社 |
| シモン・ハレヴィ | 『カバラの道』 | 出帆新社 |

d 辞書等

| | |
|-----------------|---------|
| 『ヘブライ語聖書対訳シリーズ』 | ミルトス |
| 『ヘブライ語入門』 | キリスト聖書塾 |
| 『現代ヘブライ語辞典』 | キリスト聖書塾 |
| 『旧約聖書ヘブル語大辞典』 | 聖文社 |
| 『羅和辞典』 | 研究社 |
| 『ギリシア・ラテン引用語辞典』 | 岩波書店 |

(2) 洋書

a 必携図書

| | | |
|------------------|--|---------------------------|
| C & S.T. CICERO | <u>SELF-INITIATION INTO THE GOLDEN DAWN</u> | LLEWELLYN |
| | <u>CREATING MAGICAL TOOLS</u> | LLEWELLYN |
| | <u>RITUAL USE OF MAGICAL TOOLS</u> | LLEWELLYN |
| ISRAEL REGARDIE | <u>THE GOLDEN DAWN</u> | LLEWELLYN |
| or also | <u>THE COMPLETE GOLDEN DAWN SYSTEM OF MAGIC</u> | NEW FALCON ⁽¹⁾ |
| | <u>MIDDLE PILLAR</u> | LLEWELLYN |
| ALEISTER CROWLEY | <u>777 and OTHER QABALISTIC WRITINGS</u> | WEISER |
| GARETH KNIGHT | <u>A PRACTICAL GUIDE TO QABALISTIC SYMBOLISM</u> | WEISER |

b 実践に関する図書

| | | |
|----------------------|---------------------------------------|-------------------------|
| GARETH KNIGHT | <u>OCCULT EXERCISES AND PRACTICES</u> | AQUARIAN ⁽²⁾ |
| | <u>THE PRACTICE OF RITUAL MAGIC</u> | AQUARIAN |
| ISRAEL REGARDIE | <u>THE TREE OF LIFE</u> | WEISER |
| | <u>FOUNDATIONS OF PRACTICAL MAGIC</u> | |
| Wm.G.GRAY | <u>THE LADDER OF LIGHT</u> | WEISER |
| | <u>MAGICAL RITUAL METHODS</u> | WEISER |
| D.ASHCROFT ~ NOWICKI | <u>THE RITUAL MAGIC WORKBOOK</u> | AQUARIAN |
| | <u>THE TREE OF ECSTASY</u> | AQUARIAN |
| | <u>INNER LANDSCAPES</u> | AQUARIAN |

c 魔術知識及び歴史に関する図書

| | | |
|---------------------|--|----------|
| W.E.BUTLER | <u>MAGIC AND THE QABALAH</u> | AQUARIAN |
| N.DRURY&G.TILLET | <u>THE OCCULT SOURCEBOOK</u> | RKP |
| F.KING&I.SUTHERLAND | <u>THE REBIRTH OF MAGIC</u> | CORGI |
| ELLIC HOWE | <u>THE MAGICIANS OF THE GOLDEN DAWN</u> | AQUARIAN |
| | <u>THE ALCHEMIST OF THE GOLDEN DAWN</u> | AQUARIAN |
| ITHELL COLQUHOUN | <u>SWORD OF WISDOM</u> | PUTNAM |
| ELIPHAS LEVI | <u>TRANCENDENTAL MAGIC</u> | RIDER |
| | <u>THE HISTORY OF MAGIC</u> | RIDER |
| MACGREGOR MATHERS | <u>THE KEY OF SOLOMON THE KING</u> | WEISER |
| | <u>THE GRIMOIRE OF ARMADEL</u> | RKP |
| FRANCIS BARRETT | <u>THE MAGUS</u> | CITADEL |
| E.A.Wallis Budge | <u>THE EGYPTIAN BOOK OF THE DEAD</u> | DOVER |
| | <u>THE GODS OF THE EGIPTIAN 2 vol</u> | DOVER |
| | <u>AN EGYPTIAN HIEROGLYPHIC DICTIONARY 2 vol</u> | DOVER |

(1) この本は、上記書『黄金の夜明け魔術全書』（国書刊行会）の改定版である。邦訳はトライアングル社から『コンプリート・マジック・システム・オブ・ゴールデン・ドーン』として刊行されている。経済状態が許せば、両方買うことが望ましい。

(2) アクエリアンはソーソン社内の子会社だったが、親会社ごとハーバー・コリンズに買収された。従って、ハーバー・コリンズの配本サービスと>Contactする必要がある。

d 辞書等

| | | |
|--|-------|--------------|
| <u>HEBEW & ENGLISH DICTIONARY</u> | | BANTAM BOOKS |
| <u>POCKET INTERLINEAR OLD TESTAMENT</u> | 3 vol | BAKER BOOK |
| <u>THE OTHER BIBLE</u> | | HARPER & ROW |
| <u>HEBREW AND CHALDEE LEXICON TO THE OLD TESTAMENT</u> | | EERDMANS |
| <u>COMPACT LATIN DICTIONARY</u> | | LAUREL |
| <u>GODWIN'S CABALISTIC ENCYCLOPEDIA</u> | | LLEWELLYN |

さて、だいたい以上のような書籍が代表的な、しかも現在手に入りやすいテキストである。次に洋書を手に入れる方法だが、現在ではインターネット上で購入するのが最も手早い方法である。国内の大手の書店で注文する方法もあるが、経費と時間とがかかり過ぎるのでお勧めしない。

3 I O S 入団案内

(1) 資格要件

a 1年分の魔法日記の提出

本書『第1講義文書』（第5版）に定められた13か月分の学習を終了し、その間の『魔法日記』を記録している者を対象とする。本書を学習する者は、広義にはI O Sの仮参入者である。その実績を見るため、学習期間全部の『魔法日記』提出は不可欠の要素だ。その内容が、1月のうち数日間抜けている程度ならともかく、もし1章分が丸々空白の場合は団には受け入れられない。もう一度、該当する部分の学習を行った後、連絡されたい。

なお、『実践魔術講座』下巻の知識は、入団資格そのものとは関係ないが、今後の魔術作業に必要である。

b 18歳以上であること

原則として、高校生の入会は認めない。団の目的は「黄金の夜明け」団の魔術の追及である。百年前に英国に存在した「黄金の夜明け」団は、21歳が入門制限であった。21歳とは、英国の法律で認める成人の年である。自分に責任を持てる年令の者のみを、我々は仲間として迎え入れる。まだ、若い志願者諸君は勉強に、つまり自己の人格形成に励んで、資格年令に達してからI O Sの門を叩いて欲しい。そのときは、我々のテンプルは親身に諸君の入会を認めるであろう。

c 信仰心を持っていること

われわれの追及するものは宗教ではない。しかし、神秘的な宇宙の構造と生成の理論に深く踏み込み、また、人間の精神の奥底に分け入る作業を、安全にかつ効果的に実践するためには、自分の力を越えた「超越者」に対する信仰が、バランス・シートとして不可欠である。『無神論者』とエゴイストは直ちに、この入会案内を破り捨てなさい。魔術作業は、そのような人物には危険な「遊び」となるであろう。信仰は、キリスト教、仏教、イスラム教、神道、その他、倫理的に安定した古い宗教であれば何でも良い。ルシファー等のネガティブな諸力を信仰する者は、団と相談すること。基本的には、われわれは「光と闇」のバランスの取れた魔術しか教えない。

(2) 入団手続きについて

a 質問状等の提出

『I O S 質問状』及び『I O S 団員登録書』に必要事項を書き込み、本書の学習成果を記録した1年余の『魔法日記』を電子メールでI O S 事務局に送付すること。これが入団の第1次審査になる。

また、魔法名は、諸君の魔術に関する志や希望をラテン語^{ラテン語}等で記載するものである。

また、魔法名を持たない者は無記名で出し、テンプルの指^{スパーバウ}導者と相談しなさい。

b 昇任課題の提出

入団の1次審査に合格した諸君には、『ニオファイト昇任課題』が送付される。

本書の学習に基づく、仮参入者の修行が十分に行われたか否かを判断する課題である。

この2次審査に合格すると、入団案内及び『団内規則』、『第2講義文書』等の公式文書が配布され、正式に入団が許可される。

以上が、簡単な団の方針と入会手続きである。我々は、常に真摯な志を持つ仲間を求めている。

^{ライト・イン・イクステンション}
『一条に迸る光』こそ、我らの合言葉である。

Fra.M.E.S.A. 5=6 A.M.

IMPERATOR GENERAL, DIRECTOR OF STUDIES in I O S

4 I O S 質問状

この質問状は、あなたを直接指導するテンブルの^{スーパーバイザー}指導者が、あなたの魔術的経歴を速やかに掌握するために作成するものです。学習主任と指導者以外の人物は目にしません。個人情報保護については、適切な措置を講じています。

ニオフアイトとして参加するあなたの知識や能力が少ないのは当然です。心配せず、ありのままを書き、テキストまたはPDF文書としてメールに添付してください。

- 1 あなたは何故、I O S に入団したいのですか。
- 2 あなたは「魔術」をどのように定義しますか。
可能ならば、『第1講義文書』とは異なる「あなたの言葉」で表現して下さい。
- 3 あなたは「魔術」を主としてどんな目的に使用したいですか。
- 4 あなたは本書で指定された以外の「魔術」を実践したことがありますか。
実践したことがある人は、次の項目ごとに答えてください。
 - (1) 儀式魔術（内容と結果）
 - (2) 神占術
 - a 占星術（ホロスコープを作成した者は、流儀、親しい人物、未知の人物ごとの枚数）
 - b タロー（スプレッドの方法、所持しているデッキの種類）
 - c 地占術その他の神占術
 - (3) G D システム（どの程度まで実践したか、簡単に書いてください）
 - a 中央の柱の行法
 - b 生まれなきものの儀式
 - c 召喚
 - d 喚起
 - e 薔薇十字の儀式
 - f タットワ
 - g その他の作業
 - (4) ウィッチクラフト
 - a サバト
 - b エスパット
 - c その他のクラフト
 - (5) 他の流派の魔術
 - a 古典魔術（ゲーティア、アルマデール等々）
 - b カバラ系
 - c ブードゥー等の土着系
- 5 監理事項
貴方が持っている魔術及び秘教の伝統に関する書籍とその著者名を、洋書と和書に区別して、別紙に列挙して下さい。そのリストは何ページになっても結構です。
インターネット等からダウンロードした電子図書は、著者、書籍名のほかに該当するサイト名等も併記して下さい。

付録 I O S 団員登録

以下のURLから団員登録をダウンロードしてください。

団員登録書はマイクロソフト社のエクセル文書で作成してあります。

エクセルが使用できない等で、そのままの形態では利用できない方は、PDF形式の登録書を印刷して、必要事項を記入後、スキャナー等で読み込みファイル化して送ってください。

I O S 入団案内

<http://www004.upp.so-net.ne.jp/akibba/aspirant/ASP.html>

団員登録書エクセル版

<http://www004.upp.so-net.ne.jp/akibba/aspirant/admission.xls>

団員登録書PDF版

<http://www004.upp.so-net.ne.jp/akibba/aspirant/admission.pdf>

記入の例文を次頁に示します。